

令和 2 年度

福島県環境審議会全体会議事録

(令和 2 年 1 0 月 2 6 日)

## 1 日時

令和2年10月26日(月)

午後 1時30分 開会

午後 3時00分 閉会

## 2 場所

福島テルサ3階 大会議室あぶくま

## 3 議事

福島県環境基本計画の進行管理(令和2年度版福島県環境白書)について  
福島県環境基本計画の改定について

## 4 出席委員

安齋康史 石庭寛子 伊藤賢之 大河原ハルイ 大堀武 小野広司  
河津賢澄 今野万里子 崎田裕子 清水晶紀 高橋龍之 武石稔  
武田憲子 丹野淳 中野和典 新妻和雄 西村順子 橋口恭子 細谷寿江  
渡邊明(以上20名、五十音順)

## 5 欠席委員

大迫政浩 二瓶恵美子 門馬和夫 油井妙子(以上4名、五十音順)

## 6 事務局出席職員

渡辺生活環境部長

高野生活環境部政策監

橋本環境回復推進監兼環境保全担当次長

大山環境共生担当次長

(生活環境総室)

村上生活環境総務課長

橋本生活環境部企画主幹 他

(環境共生総室)

大橋環境共生課長

阿部自然保護課長

小池水・大気環境課長

(環境保全総室)

濱津一般廃棄物課主幹

高橋産業廃棄物課長

鈴木中間貯蔵施設等対策室長  
柏倉除染対策課主幹  
(危機管理部)  
水口原子力安全対策課主幹  
佐藤放射線監視室副課長兼主任主査

## 7 内容

(1) 開会 (司会：小川生活環境総務課主任主査)

(2) 挨拶 渡辺生活環境部長

### (3) 福島県環境審議会の組織体制

#### ア 会長の選任等について

会長に福島大学名誉教授 渡邊明委員、会長職務代理者に福島大学行政政策学類准教授 清水晶紀委員が選任された。

また、渡邊会長（議長）から、議事録署名人として、石庭委員と橋口委員が指名された。

#### イ 部会構成について

事務局（橋本生活環境部企画主幹）から、資料「組織体制1」のとおり、「環境政策及び循環型社会推進等に関すること」を審議する部会として第1部会、「廃棄物対策及び環境汚染防止等に関すること」を審議する部会として第2部会を設置する案を説明し、了承された。

#### ウ 所属部会の指名について

渡邊会長が、各部会に所属する委員を指名した。

#### エ 部会長の選任等について

第1部会長に福島大学行政政策学類准教授 清水晶紀委員、第1部会長職務代理者に福島大学食農学類教授 西村順子委員が選任された。

第2部会長に福島大学共生システム理工学類客員教授 河津賢澄委員、第2部会長職務代理者に日本原子力研究開発機構 廃炉環境国際共同研究センター環境影響研究ディビジョン 武石稔委員が選任された。

組織体制の決定後、事務局（橋本生活環境部企画主幹）から資料「組織体制2」、「組織体制3」により補足説明を行った。

#### (4) 議事

福島県環境基本計画の進行管理（令和2年度版福島県環境白書）について  
福島県環境基本計画の改定について

事務局（村上生活環境総務課長）から資料1-1～1-3、資料2により説明し、以下の質疑等があった。

##### 【渡邊会長】

皆さんから御質問を受けたいと思います。環境白書、環境基本計画についての御意見、御質問、コメントがありましたらお願いします。

##### 【安齋委員】

福島民報の安齋です。2点確認したいのですが、「組織体制2」にスケジュールがありますけれども、こちらですと全体会の開催が5回となっていて、見直し後のスケジュール（資料2）を見ますと、9月までに3回となっています。これはどういうふうに見ればいいのか、教えていただきたい。

あともう1点は御説明いただいた環境白書ですけれども、何部作成してどんなところに配布してどんな活用をされているのかというところを教えてくださいたいと思います。

##### 【橋本生活環境部企画主幹】

お答えいたします。まず年間スケジュールの関係の整合でございます。先に説明させていただきました「組織体制2」と先ほど説明させていただきました環境基本計画改定のスケジュール（資料2）でございますが、「組織体制2」の方のスケジュールにつきましては、環境基本計画だけではなくて、他の計画のスケジュールも入っております。ですので、後の方に説明させていただいたもの（資料2）は、先に説明した「組織体制2」のうちの環境基本計画に係るものの部分がイコールになるという形で整合がとれております。

また、白書の使い方ということでございますが、白書につきましては、この後皆様からこのような形でよろしいという御了解をいただきましたら、必要な部数を印刷させていただきまして、市町村、各関係団体等にそれぞれ発送させていただきます。また、県のホームページにもアップをさせていただきます。また、福島県の環境施策の令和元年度の取組状況ということで、幅広く周知をしてまいりたいと考えております。

##### 【安齋委員】

見直し後の資料（資料2）には第1部会しか入っていないのは何かあるんですか。

### 【橋本生活環境部企画主幹】

環境基本計画につきましては、先ほどの「組織体制1」の資料にあります  
が、ここにいうところの審議事例、環境保全対策の総合的計画ということ  
で、第1部会の審議事案として今後進めていきたいと考えております。

### 【河津委員】

関連してなんですけれども、環境白書が各機関に配られているということ  
ですが、これらと合わせていろいろなリーフレットをつくったりして、状況  
を各機関に発出していると思います。一つ聞きたいんですが、環境審議会の  
委員の皆さんには配られているんですか。白書以外にも、例えば環境創造セ  
ンターのニューズレターとか、比較的分かりやすく、非常にいい情報が入  
っているものが結構あるかと思います。その辺はせっかくなので是非広報を  
していただければと思います。確かにネットをみればみんな載っていること  
は間違いありません。ただネットをみるきっかけがなかったりしますと、な  
かなかみられないものですから、是非積極的に、特に審議会の各委員の方  
には、福島県の現況がどうなっているかということを随時わかっていただけ  
ると非常に参考になると思いますので是非その辺を検討していただきたいと思  
います。

もう1点はちょっと話が変わりますが、今、このコロナ禍の中で、環境施  
策にどういった影響があって、来年度に向けての影響がどのくらい考えられ  
るか、おおざっぱで結構なんですけれども、そういう見通しなり見解なりあ  
れば、お聞かせいただきたいと思います。

### 【橋本生活環境部企画主幹】

まず1点目の審議会委員の皆様に対する環境施策等の周知ということでご  
ざいます。まさにこれから次期環境基本計画の改定ということで皆様に幅広  
い視点から、御議論、御意見いただきたいということで、なるべく我々の持  
っている情報につきましては、積極的に御連絡できるようにしてまいりたい  
と思います。

2点目につきましては、コロナの影響ということであろうかと思えます。  
新型コロナウイルス感染症の影響につきましては、生活環境部、環境施策の  
方でもさまざまな影響が想定されてございまして、例えば、新たな生活様式  
ということで家庭におけるエネルギーの増減であったり、もしくはごみの発  
生量の増減であったり、新たな働き方ということでテレワークの推進という  
こともございまして、今推進している国立公園の魅力向上などの取り組み  
との関連等々、さまざまコロナの影響、新たな生活様式に基づく環境施策へ  
の影響が大いにあるのかなと考えております。環境白書の今後の方向性の中  
でも一部記載をさせていただきましたが、今後コロナの影響ということも鑑

みながら、次期環境基本計画において、必要なものにつきましては盛り込んでいきたいと考えております。

**【渡邊会長】**

もし提案があれば、是非提案してほしいと思いますが。

**【河津委員】**

提案といいますか、個別の事業をやるにあたって、かなり支障がある部分があるんじゃないかと思うわけです。例えば、なかなか人が集めにくいとかです。ボランティアの話、例えば猪苗代湖の例もそうだと思うんですけども、なかなか集めにくいという中で具体的に知恵を絞っていくのは大変だと思います。来年度に向けての予算要求の時期だと思うんですけども、ある意味、せつかくの機会と捉えながら、環境施策をなんとかうまく推進させる方向でいろいろ考えていただければと思っています。また何かありましたら提言したいと思います。

**【渡邊会長】**

その他ありますでしょうか。

**【中野委員】**

日本大学の中野です。第2章の環境指標の達成状況の方なんですけど、60ページです。猪苗代湖の水環境保全のところなんです。これを見ると、非常に残念ですけども、3年連続でCODが上がっています。これまで横ばいだったのがもう明らかに増える方向に変わっているんじゃないかなと。このコメント欄もあまり危機感を感じませんし、目標値の達成状況も、ハイフンでいいのかなとちょっと疑問に思います。

**【小池水・大気環境課長】**

水・大気環境課です。御質問ありがとうございます。猪苗代湖の水質につきましては、こちらのほうに記載のとおり、毎年々々徐々に、少しずつではありますが上がっているというような状況でございます。今まで猪苗代湖の水環境を保全するために、生活排水対策を含めた汚濁負荷の流入削減、また、水草回収とかそういったものの湖内域の水環境保全活動に取り組んでまいりました。にもかかわらず、こういったような状況になっていることは非常に残念だと思っています。特に水草回収とか、そういったものについては、コロナの影響もございましてボランティアの活動などがなかなかできないという状況も出てきておりますので、効率よくこういった活動ができるような方策を今後きちんと検討していきながら、水環境保全の対策を進めていきたいと考えております。

**【中野委員】**

汚水処理人口普及率も、着実に増えていて、水草のボランティアも非常に

盛んに行われていてこの現状なので、残念ながらそういう方向性ではこれは止められないんじゃないかなと私は考えておりました、ですから今までやってきたことを否定するわけではないんですけど、何か違う方向性も提案する時期に来ているのではないかと。国立公園ですし、なかなか手を出しづらいとか、いろんな諸事情はあるにしても、猪苗代湖の水質は非常に注目度が高く、やっているんだっていうだけでは駄目なんじゃないかなと。今まで上がったり下がったりしていたのが3年続けて上がっているっていうことが非常にショッキングなので、ちょっと厳しいコメントをしました。

#### 【小池水・大気環境課長】

御意見ありがとうございます。猪苗代湖の水環境に関しまして、今、流入削減という部分についてですけれども、環境創造センターの方の研究などの中で、猪苗代湖に流入する河川なり水路を直接浄化できないか、そういったところも、現在検討を進めておりました、環境省との連携協定も踏まえて、知恵をお借りしながら対策を今後検討していきたいと考えております。

#### 【中野委員】

環境省と新しい取り組みをつくって、今までやってきたことだけでは駄目なんだっていうような反省も必要なのかなと思います。

#### 【伊藤委員】

いろいろ御意見聞いていまして、非常に参考になりますけれども、ちょっと私の観点から申し上げますと、猪苗代湖は私が小さい頃生まれ育ったところなんで、水泳ぎしていましたが、あそこの地元にいる鬼多見賢さん、白鳥おじさんですか、一生懸命やっておられる。猪苗代湖の浄化のために頑張っている。そして自動車のトヨタさんあたりの従業員の方が一生懸命取り組んでいる。このように継続してやる方がいいと思う。

私の自慢でも何でもありませんけれども実例を申し上げますと、渡邊先生の御指導、その他の先生方の御指導も得ながら、福島市の吾妻から県庁裏まで、阿武隈川に流れる一級河川の荒川が10年連続水質日本一になりました。昨年6月に環境大臣賞をいただきまして、その後県知事表彰も受賞できましたし、5月には日本河川協会の表彰も受けました。その結果を申し上げますと、24年間、全くひどい川だったんです。ごみやなんかが。一例を申し上げますと、電化製品から車両のごみから、まず今では考えられないごみがあったんです。それをいろんなルートを通じて、民活です、官庁関係ではなく民活で始めまして、今はごみの一切無いきれいな環境の河川になっております。やはり役所のほうでは財政的にも人員のやりくりも大変ですから、地域の住民の方の参加、除草でも草刈りでもごみ拾いでも、それから、沿線にいる企業体、民間の企業の方々に御理解をいただいてずっと続いてい

るわけです。数年前は福島市役所の今の市長さんの前の前の市長さんの時に、5ヶ所で1,100名の参加がありました。これは全くのボランティアです。私らの会は国からも県からも市からも一銭も助成を受けておりません。民間の助成金をいただいてやっております。現実はどういうことをやったらいいんだということですが、私らは楽しみながら、継続して地道な活動をコツコツとやっているということです。しかもそれを民間の団体やボランティアの団体に理解していただいて一緒にやったら長続きするんじゃないか、そのような状況でございます。

#### 【渡邊会長】

貴重な御意見ありがとうございました。猪苗代湖は今後また検討していきたいと思えます。その他いかがでしょうか。

#### 【崎田委員】

3点ほどコメントさせていただきたいのですけれども、それぞれ違う分野のところなんです、最初のところは1番最初の環境回復と原子力発電所の周辺地域の安全性のところなんです、例えば10ページの課題と今後の方向性のところに、これからの廃炉産業を厳しく監視していきますと書いてあります。もちろん放射線に関しては厳しく監視をし、審議会などで意見交換をしていただければありがたいと思うのですけれども、それだけではなくて、例えば2050年以降の中間貯蔵や廃炉を見据えて浜通りの皆さんが、どういうふうに地域の環境再生とか復興を目指していかれるのかとか、そのようなことを積極的に、計画を立てていっていただく大事な時期なんだというふうに思うんです。ここのところ伝承館ができたりいろいろなニュースも増えてきて、そういう関心が高いと思うので、是非環境の分野でも、特に浜通り地域の将来の展望と廃炉というようなことに関して、皆さんの積極的な意見交換ができるような場を持っていただくのも大事な方向ではないかなとちょっと感じたものですから、コメントさせていただきたいと思えます。

2点目はですね、低炭素のところなんですけれども、福島県の皆様ですと、低炭素、脱炭素に向けて積極的に取り組むと宣言されていると伺っているところなんですけれども、この夏に環境省のほうで全国のカーボンゼロの宣言をされた自治体のリストが発表されて、自治体の人口比から言えば日本の半分の人口を超える方達が住んでおられる自治体が2050年のゼロカーボンシティを宣言しておられる状況になっております。福島県が県としての宣言リストに入っていなかったんですが、ちょっとその辺、私の間違いでしたら申しわけありませんが、是非一緒に入っていて、ゼロカーボンを本当に実現できるのは福島県が一番早いのではないかと私は思っていますの

で、是非牽引していただけるように、再生可能エネルギーのいろいろな施設とか、それを活用した水素の設備とか、他の所では得られないいろいろな技術もありますので、是非福島の皆さんがそこを積極的にアピールしていただくのがよろしいのではないかなと感じました。

3点目は、循環型社会の形成のところで、食品ロス削減に意欲的に取り組んでいただいている記載があつて、大変うれしく思います。それで、今度、循環型社会形成推進計画や環境基本計画の改定のタイミングで、是非自治体の食品ロス削減の推進計画という意味合いの部分を明確につくって、福島県の皆さんが積極的に取り組んでおられますので、それがしっかり発信できるような形にさせていただくことが、県民の皆さんや事業者の皆さんのやる気とかそういうものが高まるのではないかなと思いました。

#### 【渡邊会長】

大変重要なポイントを3点いただきましたけれども、何かありますでしょうか。それとも承るといふことでよろしいでしょうか。

#### 【濱津一般廃棄物課主幹】

一般廃棄物課でございます。食品ロスの削減の計画について御意見いただきました。食品ロスの削減推進計画につきましては、現在、庁内の関係する部局と連絡会議を設けまして検討をこれから進めていきたいと考えております。また、本県の食品ロスの削減に向けて、今後調査を行いながら、例えば事業所や家庭でどのような課題があるか、検討してまいります。環境基本計画の改定と整合を図りながら計画策定に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

#### 【大橋環境共生課長】

環境共生課の大橋と申します。脱炭素の件です。いわゆるゼロカーボンシティの宣言ということだと、本県はまだ宣言をしておりません。これまでの取組としては、温暖化対策推進計画に基づき、県民、事業者、市町村等、あらゆる主体が一体となった県民総ぐるみの徹底した省エネ対策、併せて省資源対策、さらには先ほど委員がおっしゃったような、再生可能エネルギーの推進、また県内産水素の活用といったものを総合的にやっていくということで取組を進めているところです。今後の国の動きも注視しながら、本県においてもこういった取組の一層の充実強化を行いながら温暖化対策を進めていきたいと考えております。

#### 【渡邊会長】

浜通りの意見についてはどうですか。復興を含めた上で、浜通り地域あるいは廃炉に関わる問題を含めて環境を考えた方がよいのではないかとのご意見をいただきましたが。そのとおりだと思いまけれども、よろしいです

か。

そのほかにいかがでしょうか。分厚い資料ですので、いろいろな意見があるかと思います。高橋委員から当初意見としていただきましたように、今回分かりやすくつくっていただいたと思います。またどうしてもということがありましたら、事務局のほうにメールを出していただきたいと思います。

それでは予定の時間になりましたので、以上で終了させていただきたいと思います。

**(5) その他**

なし

**(6) 閉会**